

(様式1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第四吾嬬小学校
校長名	清水 雅也

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<p>【全国平均等との比較】</p> <p>◇理科以外は、全国平均を下回った観点が見られる。3/42観点のみである。</p> <p>【経年変化 等】</p> <p>◇弱みがあった5年生の算数については、3観点とも全国平均を上回っている。標準スコアも「46.7→49.5→48.8→50.8」と、はじめて50を上回った。</p> <p>◇5・6年生は、理科以外の教科において経年変化がアップしている。</p>	<p>【全国平均等との比較】</p> <p>◇全教科・全観点中、全国平均を下回ったのは「9/51観点」であった。うち、理科(4・5年の6観点)は、すべて下回っている。</p> <p>【経年変化 等】</p> <p>◇理科の弱みは、5年生の経年変化ダウン「50.5→46.3」において顕著である。実験機会(実験やグループ協議の実施)の減少が影響していると予想する。</p> <p>◇DE層の割合は、平均15～25%である。5年生においては国社算理→24.1 31.0 37.9 44.8 であり、学力の2極化が進んでいる。</p>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<p>◇2・5・6年生は、各観点ともほぼ標準スコアを上回っている。学年が上がるにつれて、学級が安定する傾向が強い。</p> <p>◇6年生は各観点とも平均スコアを上回っている。学級風土・学習意欲の高スコアが、各教科のスコアに反映されていることがわかる。</p>	<p>◇学習意欲・習慣のスコアは、各教科のスコアにほぼ反映されている。4・5年生に、その傾向が強い。</p> <p>◇少人数・単学級編成の強みを生かし、引き続き個人が活躍する場面を多く設定し、コロナ禍においても、自信をつけさせる環境づくりを進めることが課題である。</p>

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<p>◇算数少人数指導は、個の理解度に応じたグループ編成で実施している。また、必要に応じて学習支援員も配置し、個のつまづきに即時対応している。5年生CD層(312→011)、6年生CD層(108→54)と成果をあげつつある。</p> <p>◇校内研究で「各教科における言語活動の</p>	<p>◇5年生の二極化は、未だ解消されない。DE層34%(4教科平均)の数字は、日常の学習行動でも「発言者の固定化、受け身の学習姿勢」が強い傾向が認められる。</p> <p>◇共有し高め合った学習の成果を文字言語化する(記</p>

<p>充実」に取り組み、考えを共有し高め合う学習を展開（タブレット活用も含む）し、話し合い活動の日常化が図られている。</p> <p>◇月曜の校長講話・毎日の「プチ講話」で問題提起する多様な話題を、各学級にて活用（話し合い、調べ学習等）しており、児童の視野や考え、語彙を深め広げる一助となっている。</p>	<p>述する・まとめる）学習をより強化し、学習成果の確実な定着を図ることが必要である。</p>
---	---

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 考えを深める言語活動の充実

①話し合い活動の充実を図る

◇自分の考えを「対話・少人数協議・全体協議」を通して広め深める学習活動を全ての教科において実施する。また、話し合い活動にはタブレット端末（ロイロノート）も活用する。

②「書く活動」をより多く取り入れ、表現力・語彙力を高める

◇全ての教科・特別活動の場面において、書く活動を積極的に取り入れる。また、文字言語に加え、図・絵などを用いて、自分の考え・意見を効果的に表現する学習にも取り組んでいく。

◇各教科において学習に必須となる語彙を確実に習得する。日常的に辞書を活用する、子供新聞やネット情報等の文字言語メディアに触れる機会をより多く設定し、習得語彙の幅と事象認識の視野を広げる。

③資料活用力を向上させる。

◇適切な資料を集め、読み解き、活用し、学んだことや考えたことを言語化することにより、事象を多面的に理解・表現する力を身につける。

④学習の振り返りを徹底する。

◇1単位時間で何をどのように学び、理解したのかを言語化する。これにより、自らの学びの過程や質、課題を明らかにし、次時以降の学習の充実を図る。

◇ミライシードやふりかえりシートを日常的・効果的に使用し、学習事項の定着を図る。

(2) タブレット端末を活用した学習の推進

①タブレット端末活用の日常化を進める。

◇話し合い活動を中心にタブレット端末（ロイロノート等）を活用する。自他の意見や考えの 카테고리分けをする等、分析力・判断力の伸長も目指す。

◇タブレットとノート・ワークシートをそれぞれの特性に応じて併用し、思考力・表現力の伸長を図る。

②学習機会・環境を保障する。

◇不登校児童や、やむを得ず登校できない児童に対して、タブレット端末を活用した学習機会を

提供する。ホームルームや放課後の個別指導、授業の中継等、学校に配備されているICT環境で可能な方法で実施する。

(3) 個に応じた指導の充実

①個別指導の充実を図る。

◇引き続き、算数を中心に学校支援指導員等を活用したDE層児童への個別支援・指導を強化する。各学年・教科とも、DE層児童の10～20%減を目指す。

◇低学年に対する支援・指導の機会を増やし、学習支援および学習の基礎となる生活習慣の定着・確立を図る。

い

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

◇全ての教科において、DE層児童の10%～20%減を目指す。

◇各学年とも、全国平均標準スコア（全教科の平均）を1ポイント以上向上させる。

現2年生：53.2→54.2

現3年生：51.7→52.7

現4年生：50.5→51.5

現5年生：51.4→52.4